

第三期武蔵野市学校教育計画（仮称）に関する校長意見等について

■基本理念に関する意見

		主な意見
基本理念		・「自他共に～切り拓き」の部分は、文として違和感がある。自分の人生を切り拓くのは分かるが、「他」が入ると…。例えば、「他者と協働して幸福な人生を切り拓き」とか、「誰もが幸福な社会を目指し、多様な他者と協働して」とかなら意味が通ると思う。
		・「幸福な人生」という言葉がとてもよいと思う。

■基本的な考え方に関する意見

	指摘箇所	主な意見
基本的な考え方	全体	・構造図と体系図で「基本的な考え方」に書かれた4つの表現が統一されていない。動詞又は体言止めに統一すべき。 動詞・・・「…を育成する／育む」「～を育てる」「～を生かす」「～教育に取り組む／を推進する／と協働する」 体言・・・「～育成」「～意欲の向上」「～多様性の活用」「～した教育の推進」
		・統一したうえで、動詞で止めてまとめた方がよりよいと思う。
	学校・家庭・地域が相互に連携、協働した教育	・個人的には、小中一貫もそうだが、「連携」と言っているうちは弱いと感じる。 ・「学校教育」の計画なので、「学校」は入れずに、「家庭や地域との協働(で進める教育)」でどうか。

■施策・主要な取組に関する意見

施策名	主要な取組	主な意見
施策①言語能力の育成	1. 言語活動の充実	・「読む力や書く力」とあるが、「聞く力」「話す力」も重要。
	2. 英語教育の充実	・目標に「コミュニケーションを図る力」とあるが、学習指導要領には「コミュニケーションを図る資質・能力」とある。「資質・能力」の方が良いのではないか。
		・「具体的な内容」に以下のものを追加して行うと良いのではないか。 ① 実用英語技能検定など各種語学検定の奨励・補助 ② コンピュータ等を使ったパフォーマンステストの実施 ③ 英語学習用AI搭載ロボットの導入 ←「Musio X」など。
	その他	・「東京グローバルゲートウェイ」→「体験型英語学習施設TGG (TOKYO GLOBAL GATEWAY)」という表記の方が良いのではないか。
施策②情報活用能力の育成	5. ICT機器を活用した授業の推進	・「子どもたちがヘッドセットを着用しての学習活動の充実」を行うと良いのではないか。 本年度の全国学力・学習状況調査では、コンピュータにヘッドセットを接続して、映像を見て解答をヘッドセットのマイクを使って録音する「話すこと調査」が行われているため。
施策③市民性に関わる資質・能力の育成	7. 武蔵野市民科の実施と 9. 長期宿泊体験活動(セカンドスクール・プレセカンドスクール)の実施	・モデル校として市民科を実施した経験から、4年生のプレセカンド・5年生のセカンドで総合的な学習(以下「総合」と記す)の時間を費やしていることにより、本来の市民科の趣旨や具体的な指導計画が繋がっていない。探究的な学びとしてセカンドを位置付けることは、極めて難しい。今後発足する体験活動検討においては、「総合」ではなく、学校行事のカウントとして実施することを考えていただきたい。泊数も、抜本的に見直すことが必要と考える。
	その他	・「学びに向かう力や人間性の育成」を入れてほしい。

施策	主要な取組	主な意見
施策④多文化共生社会の担い手としての資質・能力の育成	12. 道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科の授業の要として、「どんな課題に直面してもしっかりと自分自身を支え、周囲と互いに認め合える大人になるための土台となる心を育てる時間」「答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の生徒が他人事ではなくて、自分自身の問題と捉え、向き合う時間」という内容が入れば、より具体的になるのではないか。</li> </ul>
	13. 交流及び共同学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『学校における「心のバリアフリー」の教育を展開する』という文言をどこかに入れた方が良いのではないか。「障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒の交流及び共同学習等の推進について(依頼)」(平成30年2月8日 文部科学省)の冒頭部分で使われています。</li> </ul>
施策⑤一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実	14. いじめの早期発見・早期対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の市基本方針は、スローガンに近いものとなっている。多様ないじめへの具体的な対応(重大事態含む)について、学校・行政・他機関等がどのように連携していけばよいかという大まかなガイドライン(実施方策?)が必要と考える。</li> </ul>
	18. 登校支援員とスクールソーシャルワーカーの配置拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校、いじめ、家庭教育の困難さ等々、SSWの必要性は減ずることはないだろう。市として、全小中学校にSSWを配置し、課題解決のハブとなる必要があると考える。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育を進めていくには通常級へのサポートが必要である。通常の学級にいる配慮を要する児童にサポートスタッフを付けていただいているが、インクルーシブ教育を進めるための学級担任の負担感が、増大している。「先生いきいきプロジェクト」の一環として負担感を軽減できるサポートスタッフの充実を期待している。</li> <li>・「合理的配慮」という言葉を入れてほしい。</li> </ul>
施策⑥健康で安全な生活の実現	26. 安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は、学級担任が中心となって組織的に行っている食物アレルギー対応については、各学校に1名以上の専門員のような者を配置して、万全を期す必要がある。アレルギーの児童が増える傾向の中、学級で起きる様々な対応に追われる担任に委ねるには限界であると考え。本校の課題ともいえるが、昨年度も複数回の誤食があった。すぐに再発防止の指導や対応は行っているが、今後も決してないとは言えない。大切な子供の命のために万全を期すことは、極めて優先度の高いことだと思う。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心身の調和的発達」という文言があるとよい。(学校教育法第二十一条八より)</li> </ul>
施策⑦学校に好循環を生み出す取組の充実	29. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民性」「セカンド」の項目にも関連するが、教育長の大切にしている内発的動機付けや自己肯定感を育むには、「主体的・対話的…」の中核となる「総合的な学習の時間」は極めて重要である。全国学力調査の結果もそれを示している。「セカンドスクール」等の宿泊行事を「総合」で確保している現状は、本市の児童にとって、大きなデメリットであると感じている。まず、年間70時間等の標準時数の確保は必須である。</li> </ul>

施策	主要な取組	主な意見(要旨)
施策⑧学校がプラットフォームとなる地域との協働体制の構築	31. 学校・地域・保護者が目標を共有した学校協働体制の構築	<p>・地域運営学校(コミュニティスクール)の検討はできないか? 「社会に開かれた教育課程」の観点からも、優れた教員確保の観点からも、コミュニティスクール公募が可能であるのは大きな利点である。地域コーディネーターについても、一層の活躍を期待できる。9日の定例校長会で、教育長がおっしゃった「制度ではなく、何のために? が大切」は、そのとおりであるとハッとさせられたが、「開かれた委員会」や「地域コーディネーター」の意義や成果・課題を踏まえつつも、制度を活用することにより、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ協働するベースができると考える。予算や人事についても、学校の発信不足はあるにせよ、現状や仕組みの理解がないために、家庭や地域から過度な要求や苦情が出る。コミュニティスクールとして、深く学校に関わっていただくなかで、相互理解が進むのではないか。法に基づくコミュニティスクールではないにしても、現在の「開かれた…委員会」をより学校経営への参画や教育活動への支援、保護者・地域との対応等を実質的に関わるような仕組みを作っていけると良いと思う。</p>
施策⑨未来を見据えた学校の整備		

(注)第6回策定委員会の資料1～3に対する意見をまとめました。  
 よって本資料の主要な取組の通し番号と取組名は、第7回策定委員会の資料と異なる部分があります。